男女共同参画推進せんだいフォーラム 2018

先達に聞く 2018

長く活動してきた女性たちが語る、「次世代に伝えたい思い」

2018 年 11 月 17 日（土）
エル・パーク仙台　セミナーホール

公益財団法人せんだい男女共同参画財団

目　次

「気づき、考え、語る場づくり」　大橋 京子
NPO 活動任意団体 MADAMADA 代表／サークル劇組「八方美人」代表　P.1

「世界には平和を、仙台にはもっと図書館を」　川端 英子
のぞみ文庫主宰／仙台にもっと図書館をつくる会 代表　P.2

「支えられて、進む」　庄子 千枝子
グループ「花」 元代表　P.3

「すべては政治とつながっている」　三橋 芳子
北京 JAC 仙台 事務局　P.4

「平和を大切に」　谷地森 涼子
女性学を学ぶ会・仙台／政治を考える女性の会 幹事／一般社団法人大学女性協会仙台支部 顧問　P.5

受けとめ、つなぐ思い　～話し手へのメッセージ　P.6

※公益財団法人せんだい男女共同参画財団のホームページで、
この冊子の PDF ファイルをダウンロードできます。
URL　https://www.sendai-l.jp

「気づき、考え、語る場づくり」

大橋 京子（おおはし・きょうこ）さん

NPO 活動任意団体 MADAMADA 代表／サークル劇組「八方美人」代表

1997 年～2001 年	「はこにわの会」運営委員
2001 年～2015 年	「I' m B☆with you」というシングルのための居場所づくりの会と、シングルペアレントの子連れの場としての「絵本カフェ Mikke」を運営、代表を務める。
2016 年～	高齢者を中心に、現在シングルの方も将来シングルになっても元気で生きることをテーマに、「NPO 活動任意団体 MADAMADA」で介護者のピアミーティングなどを実施している。

活動の原点

わたくしの個人的な体験も踏まえて、活動に至った経緯をお話しさせていただきます。エル・パーク仙台と出会ったのは、約 30 年前。そしてわたくしが離婚したのが、ちょうど 30 年前です。何かをやらなきゃいけないと思って、最初は必死で仕事をしました。そんな中で、日常の生活で出会ういろんな「？」ということに、どうしても納得がいかなくなり、家族の問題や人間関係などを井戸端形式で話し合う「はこにわの会」のスタッフになりました。いろいろ話し合いをしていくうちに、家族の問題ではなく、シングル同士でもっと共有できる場が欲しいなという思いに至り、「I' m B☆with you」というグループを立ち上げました。これは、フリートークでシングルを語る会なのですが、シングルに限らず社会的に「弱者」という立場にある人たち、性的マイノリティ―、障害を抱える方、高齢者の方の問題というものも、全てつながっていることに気づいて。そうした問題のつながりを追及していきたいという思いが芽生えました。

さらにさかのぼると、原点は個人的な体験にあります。離婚した後も元夫のストーカー行為に悩み、交番に行っても事件にならなければ取り上げてもらえず、どこに駆け込んでも、非常に傷つけられる自分がいました。誰も受け入れてくれない疎外感、居場所のなさ。「なんだこれは」という思いから、わたくしの活動は始まりました。そのうち、みんなの居場所というものを考えるようになって、絵本をツールに「Mikke（みっけ）」という居場所づくりをスタートさせていくことになったのです。

ハードルは、低く

わたくしの活動のコンセプトは「社会的な問題に気づいていない人たちに問題意識を持ってもらいたい」ということ。気づくことからしか始まらないので、気づいて考えること、語ることが必要。そして語る場に参加するハードルを低くする、気負わないで語れる、そういう場をつくっていきたいと思っています。

現在は「MADAMADA」という活動と、「八方美人」という手づくりのお芝居をしていますが、活動のスタンスは同じです。「MADAMADA」では、高齢でも元気に「まだまだ」なんでも活動できるよということをメッセージとして伝えていきたい。どんどん会の名前が変わっているのは、その時その時で形を変化させていくことで、さらに広く人々を取り込み、「気づき」に行きついてもらえたらいいなぁという思いがあるからです。

問題意識を持ってほしい

20 年前と何が変わったのか振り返ってみますと、DV 防止法やストーカー規制法といった法整備はある程度進みました。ただ、変わらないこと、変わっているかもしれないけれど、遅々として変わっていないと思うことは、社会を大きく包んでいる「意識」です。

最近 LGBT の方々のことが話題にのぼりますが、じゃあそれは何？どういうこと？というのは、近くにいる方々は誰も分かっていない。デート DV の話をしても、カップル自身が気づいていないということもあります。

そういうことを考えると、これからの方々へのメッセージとしては、繰り返しになりますが、「問題意識を持ってほしい」ということ。それは、大掛かりな行動を取ることでもなんでもなくて、ちょっと「？」と思ったことは、どんどん人に聞いてもいいし、こういう場に参加してもいいし、動いてほしいと思います。

そして、どこにも自分の居場所がないと思ったら、自分でグループを立ち上げるくらいのことをしてほしい。一人からでもいいです。そして二人になり、三人になり、それで複数の仲間ができれば、そこから何か始まるんじゃないかなぁと。いまだにわたくしはそれを思いながら、裾野を広げたい、ハードルを低くしてみんなに気づいてほしいという活動を続けております。

「世界には平和を、仙台にはもっと図書館を」

川端 英子（かわばた・ひでこ）さん

のぞみ文庫主宰／仙台にもっと図書館をつくる会 代表

1970 年	自宅でのぞみ文庫を開く
1973 年	おてんとさん文庫で文庫交流会を開き、手をつなぐ文庫の会を結成
1975 年～1982 年	仙台手をつなぐ文庫の会　代表委員
1979 年～1992 年	みやぎ親子読書をすすめる会　運営委員長、事務局長
1982 年	仙台にもっと図書館をつくる会結成　考える部会長（2007 年より代表）
2000 年	第 4 回出前紙芝居大学実行委員長
2004 年	紙芝居文化の会みやぎ結成　代表

願いとモットー

わたくしの願いは、「どんな子どもたちも、幸せに、その人生を生きてほしい」ということです。そしてそのために、「世界には平和を、仙台にはもっと図書館を」というのをわたくしのモットーにしております。この願いはバラバラではなく、つながっているということを、これまでの体験や活動を通してお話しします。

子ども時代の戦争体験

1935 年、日中戦争のさなかに仙台市に生まれました。1941 年、幼稚園に入園したその年、太平洋戦争が始まりました。その頃の教育では、日本は神の国で、国民にとって最も尊いことは天皇陛下のために命を捧げることである、ということを徹底的に教え込まれました。絵本、雑誌、マンガ、映画、お芝居、音楽、ありとあらゆるものが政府の強い統制下にありました。国民学校 2 年生の時、ガダルカナルで戦死したおじの遺骨（じつは砂）が仙台に帰ってきました。わたくしは立派な軍国少女となっており、「おんちゃんは名誉の戦死だからね」と言って友だちに自慢していたのです。

その後、仙台は大空襲で焼け出されました。家もすっかりなくなり、田舎に疎開し、天皇の敗戦の詔勅をラジオで聞いて、日本が負けたことを知りました。子どものわたくしにとって、負けた勝ったということよりも、もう爆弾が空から降ってこないということが嬉しかったのを覚えています。

翌年仙台に帰り、その年に新しい憲法が公布、翌 1947 年に施行され、「戦争放棄」「国民主権」「基本的人権の尊重」が 3 つの基本だと教わりました。子どものわたくしにも「戦争放棄」だけはしっかりとわかりました。そして「天皇陛下は神様ではなくて、人間だったんだ」と知り、価値観ががらりとひっくり返ったわけです。

文庫との出会い

結婚し、夫が働くまでは自分が支えなければと就職し、子どもが生まれれば、他の人に負けないような立派な人間に育てるというのが、わたくしの生きがいになりました。しかし子どもは、親の都合通りにはいかないわけです。イライラの子育てが続く中、次男を連れて参加したのが斎藤尚吾先生を囲む親子読書の集いでした。先生の読み聞かせを聞いて顔を輝かせている子どもたちの様子に、非常に胸を打たれました。そして「文庫は地域での共同の子育てである。みなさん文庫をやりましょう。文庫の火は今、日本全国に『燎原之火（りょうげんのひ）』のように広がっているんです」という先生の言葉で、我が家での文庫が始まったのです。

図書館は平和を創る土壌

それから地域に次々文庫が生まれ、「仙台手をつなぐ文庫の会」を結成しました。その勉強会で、図書館はなぜ無料なのかが初めてわかりました。公共図書館は全ての人に開かれ、わたくしたちのような文庫は誰でも開くことができると、図書館法に明記されています。これは戦争中とは全く違います。誰もが自由に利用できる図書館を身近につくることは、平和を創り出す土壌を耕すことではないかと思うようになりました。それから、文庫の会の有志で、「仙台にもっと図書館をつくる会」を立ち上げ、今年で 36 年、活動を続けていることになります。

「仙台にもっと図書館をつくる会」の最初の勉強会でお呼びしたのが菅原峻先生という方で、先生から会にいただいた言葉があります。「一つ、遠吠えなどと諦めてはならない。二つ、現実主義に流れるのも禁物である。三つ、どこにも遠慮することなく、高い理想を力強く訴えるものであってほしい。四つ、提案がすぐに実行を持つことに性急であってはならない。五つ、しぶとく努力を重ねる事こそが肝心である」これをなんとか守って、しこしこと続けているわけです。

年を取って、誰があとを引き継いでくれるかが今の悩みでございますけれど、図書館運動に関心のある 60 代以下の方は、ぜひ参加していただければと思います。

「支えられて、進む」

庄子 千枝子（しょうじ・ちえこ）さん
グループ「花」 元代表

1970 年	仙台市荒浜へ嫁ぐ エル・パーク仙台開館（1987 年）以前より、グループ「花」で活動 商店街の「車いすグルメマップ」の作成などに携わる
2011 年 3 月 11 日	震災で自宅が流出、5 月にみなし仮設に入居
2015 年 12 月末	集団移転地に再建・引っ越し
2016 年 6 月	ちょっとお茶っこサロン開催
2018 年	グループ「花」を退会

仙台車いすグルメマップ

グループ「花」では、エル・パーク仙台ができる前から、障害者や高齢者の問題について、話し合いをしたり、ボランティアをしたりしていました。

わたくしたちが活動を始めた時、車椅子で入ることができるレストランや食堂がありませんでした。バリアフリーがまだ整っていなかったのです。グルメマップを作ろうと、一番町界隈のお店に一軒一軒声をかけて歩きました。聞いてくださる方もいらっしゃいましたが、「うーん」と渋る方もいました。協力してくださったお店を掲載した「仙台車いすグルメマップ」は、車椅子を使っていらっしゃる方たちにとても好評でした。

被災

改訂版を作った後、「次は何をしようか」という話になりました。ちょうどわたくしが代表になった頃でした。近いうちに宮城県に大きな地震が来るということで、高齢者、車椅子を使っている方など、「災害弱者」と言われる人たちが避難所に行った時、わたくしたちに何ができるのかをテーマに、パネルディスカッションを行いました。車椅子を使った方、生協の方、市議会の方など、いろいろ方たちをパネリストにお迎えしたことを覚えています。

その数年後、想像もできない、大きな地震とともに、大きな津波がやってきました。エル・パーク仙台で集い、語らい、問題点を話し合っていたはずなのに、津波をまともに受けたわたくしは、当初、何も考えることができませんでした。ただただ自分の心が折れて、皆さんのお話を聴くことができなかったような気がします。そして、これから何をやっていったらいいのか、夫と二人で、生きていて良かったのかな、死んだほうが良かったのかな、本当に死んだ方には申し訳なかったのですが、そういうことばかり思っていました。

震災から 1 か月経った頃、ふと思い出したのがエル・パーク仙台でした。あそこに行って、イコールネット仙台の宗片さんに会おうと思いました。でも、エル・パーク仙台も被災していて、会うことができませんでした。

それからみなし仮設に移り、今までいた場所とは異なる生活が始まりました。津波や地震で被災した人たちと交わり、話し合い、いろいろなことをしていきたいなと思うようになりました。

力をくれた人たち

再び、エル・パーク仙台に来ました。グループ「花」の方たちからも声をかけられ、また参加いたしました。優しい声をかけていただいたり、支援をしていただいたり、本当に助かりました。宗片さんに会ったことが、私の一番の大きな生きがいでした。これからどうすればいいかと思っていた時だったので、お会いしたことで力をいただきました。そしてせんだい男女共同参画財団の皆さんともお会いできて、また力をいただきました。エル・パーク仙台があって良かったなと、つくづく思いました。

ちょっとお茶っこサロン

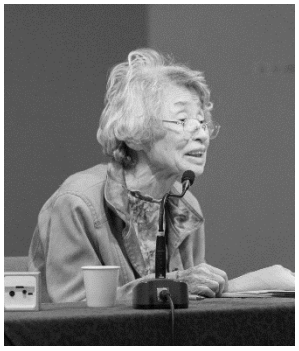
集団移転で家を再建し、多くの人たちから支援と協力をいただいて「ちょっとお茶っこサロン」を始め、3 年目に入りました。いろいろなところに散らばっていった荒浜の人たちと交わりたい、お話ししたい、そして、新しい街の人たちと楽しく集って、笑顔になっていきたい、そう思って始めました。皆さんが家に寄ってくださって、喜んで帰ってくれる。そのことで、本当に喜びと生きる力をもらっています。

年をとって、こういうことになるとは全く思っていませんでしたが、自分が何かをしたいなと思ったら、誰かきっと協力してくださる方、そして支えてくれる方がいらっしゃると思うんです。だから夢に向かって、やってみよう、できてもできなくても前に進んでいこうと思います。

本当に支えられてきたことに感謝申し上げます。ありがとうございました。

「すべては政治とつながっている」

三橋 芳子（みつはし・よしこ）さん
北京 JAC 仙台 事務局



1980 年　宮城県労働者友好訪中団（北京・杭州・上海の旅）
1994 年　仙台市海外派遣研修でアメリカ、カナダを訪問
1995 年　国連世界女性会議参加
1998 年　「北京 JAC 仙台」設立
　　世界女性会議行動綱領による「平等・発展・平和」の諸活動に携わる
その他「東北シニアライフアドバイザー協会」「政治を考える女性の会」幹事

海外での衝撃

1980 年、ちょうど 40 歳のときに、宮城県労働者友好訪中団として北京・杭州・上海の旅に行って参りました。団員の中で女性はわたくし 1 人、他 22 名は皆男性です。婦人部長などではなく、執行委員として訪問しました。北京空港に降り立った時に、まず驚きました。トラック、ブルドーザー、バス、全て女性の運転手さんだったのです。お化粧もしない、その素顔の目のきらきらしていること。これに驚かされました。なんて美しいのだろうと。わたくしは仕事が事務系だったので、自分の生きがいは何なのかということを考えさせられました。

1994 年には、仙台市の海外派遣研修でアメリカ、カナダを訪問いたしました。その時の仲間と一緒に「北京 JAC 仙台」を結成し、20 年続いております。

1995 年、北京の国連世界女性会議に参加して驚いたのは、アフリカ人の女性の姿です。真っ赤な服を着て、スリッパをはいて、北京郊外の町をほこりを立てながら意気揚々と歩いていました。「ああ、これからの女性の姿だなぁ」と思いました。

北京 JAC の J は “Japan”、A は “Accountability”、C は “Caucus” で、女性たちの人権を守るだけではなく、女性自身が責任を持って政策提言をしていくことを目的としています。1995 年の国連世界女性会議で採択された北京行動綱領は、政治、平和、教育、貧困など女性問題に関するもので、それを全うしていくのが、わたくしたちの活動です。

働く中で

わたくし自身は 1998 年に、31 年務めた職場を辞めました。女性も定年まで働こうという組合の合言葉があったわけですが、役員である私が早々と辞めてしまったので、みんなに怒られたことを覚えております。わたくしのいた職場は約 1,000 名が働く大きなところで、託児所もございました。生後まもなく預けられる施設が、職場の中にあったわけです。共働きは 300 組で、退庁時になるとみんな一斉に帰っていきます。共働きができたのも、保育施設があったからだとわたくしは思っております。子どもが学校に入りますと学童保育に通わせて……という風に、女性はその時々の生き様が子育てによって左右されるということを考えさせられました。

手を結び、声を上げる

二つお話しさせてください。

一つ目、女性自身が、女性ということだけで、手を結ぶべきだと思います。よその団体のことをいろいろ言うことはできますが、仲良くする、手を結ぶということは、なかなかできないのではないかとわたくし自身思っております。

そして、その手を結んだわたくしたちの、ありとあらゆることが政治と繋がっているということです。お台所のニンジンの問題にしても、今話題の憲法改正の問題にしても、外国人の受け入れ労働者の問題にしても、あらゆるものが政治とつながっていると思います。みんなで声を上げて、なんとかしていく必要があるのです。全て政治につながっているということを、わたくしたち自身が常に考えておかなければならないと思います。

もう一つ、やはり行動するしかないのではないかと思っております。わたくしは仕事を辞めてから、さてボランティア活動だということで、いろいろな図書館をめぐり、女性の先駆者の自伝を読み漁りました。その中で大事なことは、目を大きく見開いて、自分の生を生きるということなのだと思いました。

ある科学者の言葉で締めくくりたいと思います。
「道を歩けば、道を歩く人が多くなれば、大きな道になる」。

「平和を大切に」

谷地森 涼子（やちもり・りょうこ）さん

女性学を学ぶ会・仙台／政治を考える女性の会 幹事／一般社団法人大学女性協会仙台支部 顧問

1979 年～1982 年	仙台市立八木山南小学校 PTA 会長
1979 年	仙台市女性リーダー研修（三鷹・神戸）参加
1993 年～	女性学セミナー企画委員の仲間と「女性学を学ぶ会・仙台」を結成
1993 年～	手づくり選挙を戦った仲間と「政治を考える女性の会」を設立、2016 年より代表を務め、現在幹事
2000 年～2002 年	伊達なクニづくり女性委員会委員長（女性の翼研修生による団体）
2010 年～2014 年	(一社)大学女性協会仙台支部長、同協会理事を経て 2017 年より仙台支部顧問

女性学との出会い

わたくしは 3 つの団体に所属しておりますが、活動の根っこは女性学だと思っております。「仙台に生涯学習の場を設けてほしい」と要望したことがきっかけで中央市民センターの学習講座の企画委員となり、そこで女性学に出会いました。女性問題を解決するための学習をさらに深めるため、企画委員有志が中心となり、1993 年､「女性学を学ぶ会･仙台」を結成いたしました。

女性の生きづらさ

わたくし自身が初めて女性差別を感じたのは、大学卒業の時です。1960 年と言えば、ちょうどテレビが普及し始めた頃。NHK に入りたかったのですが、アナウンサー以外は男性のみの採用で、女性のわたくしは試験すら受けられませんでした。その年、地元の民放が編成部門に初めて女性を採用するということで応募し、報道部の記者となりました。時間に追われるのは性に合っていたのか、大変張り切って仕事をさせてもらいました。3 年目に入り、仕事も慣れてきて、いろいろなところに取材に行くのは大変楽しかったのですが、その一方で、自分自身を“結婚適齢期”という言葉で縛ってしまい、結婚退社しました。

夫の転勤に同伴し、3 人の子どもを生み育て、仙台に戻って来ましたが、子育てが一段落すると、社会から取り残されたような寂しさを味わうようになりました。そこへ、古巣から「テレビの奥様番組のリポーターをやらないか」という声がかかりました。月 1 回の出演でしたが、生活者の視点を生かした仕事ができる喜びを味わい、社会復帰への意欲が湧いてきました。

ちょうど 43 歳のとき、今度は大学の先輩からの推薦で、保健所の 1 歳半健診の心理判定員として、非常勤で子どもの発達検査と母親の育児相談を担当することになりました。60 歳の定年まで、約 5,000 組の親子と面接。転勤先で頼れる相手もなく、お母さんが一人で子育てをしている実態を目の当たりにし、保健師さんと一緒に親子遊びの教室を設けたり、地域で子育ての仲間づくりを進めるお手伝いをしたりしました。

1986 年から委嘱された人権擁護委員の相談活動でも、憲法に男女平等が謳われているにもかかわらず、差別を受けて苦しんでいる女性たちと出会いました。

仲間と一緒に

相談業務に携わりながら、「女性学を学ぶ会」の仲間と話し合い学習を積み重ねることができました。毎月の例会では、日常生活の中に潜むジェンダー差別、性別役割分業意識など、気になること、変だと思うことを自分の言葉で話題提供します。そして仲間と問題を共有し、話し合うことによって、自分のジェンダーバイアスに気づく学習をしております。

「女性学を学ぶ会」結成と同じ年に「政治を考える女性の会」を設立。議会傍聴を続け、日々の暮らしの営みを通して政治に関心を持つようになりました。

「大学女性協会」では、活動目的の第一に、女性の高等教育の向上を掲げています。女子の大学進学率が高くなってきた今、「何の意味があるの？」と言われることもありますが、東京医科大の不正入試問題に見られるように、教育の分野も男女平等であるとは限らないのです。東日本大震災の時には、この会ではいち早く全国の会員に募金を呼びかけたり、被災地の高校生に対し、給付型奨学金制度を設立したりしました。

こうしてわたくしたちはエル・パーク仙台を仲間と集う居場所にし、それぞれの活動を楽しみ、生きがいにしております。

今、伝えたいこと

わたくしは満州の遼陽というところで生まれ、「涼子」と名前が付けられています。81 歳になった今、一番伝えたい言葉は「平和」です。人々の幸せや暮らしが大きな力で押し潰される戦争だけは、もう二度とごめんです。そのために、政治に関心を持って、70 年の平和を築いた現行憲法を大切にしていきたいと思っています。

受けとめ、つなぐ思い ～話し手へのメッセージ

[大橋 京子さんへ]

・「Mikke」で求めた絵本を今も大切に持っています。大橋さんのジェンダー感覚があたたかく伝わる内容で、今も私の宝物です。
・日常の「？」をそのままにせず、問題意識を持って生きていきたいと思います。
・「個人的なことは政治的なこと」を実践していらっしゃることに感心しました。
・新しい人たちを巻き込みながら歩みを止めない大橋さんが素敵です！

[川端 英子さんへ]

・「平和」と「図書館」がきっちりとつながりました。急がず、しぶとく…心に刻みます。
・世界中の子どもたちが戦争のない平和な世界で幸せに生きてほしいという願いに同感です。
・理想を持つのに遠慮は不要なのですね。「もっとの会」の皆様がどうして熱意を持ち続けられるのか、わかった気がしました。
・図書館を身近に感じられて日々使うことができるのは、幸せなことだと思いました。

[庄子 千枝子さんへ]

・人との出会いやつながりを自分が行動する力に変えていくことができるのだなと感じました。エル・パーク仙台が人のつながる場所になっていることが嬉しい!!
・いつもの居場所といつもの笑顔を日々大切に生きていこうとあらためて思いました。
・庄子さんの笑顔とあたたかい言葉を聞くと、いつも元気になります。「今日もがんばろうかな」という気持ちになります。
・「やりたいと思ったら夢に向かってやってみて…」その言葉に背中を押されました。

[三橋 芳子さんへ]

・「女性というだけで手を結ぶべき」本当にそうですね！みんなで道幅を広げていきましょう！
・女性たちが責任を持って社会で声を上げていけるよう、私もできることをやっていきます!! 三橋さんの意志をつなぎます。
・政治にすべてつながる、声を上げる、行動する。あらゆることをあきらめてはいけないと思いました。
・働く女性の美しさ、生きがいを持って働くことの素晴らしさを教えていただきました。

[谷地森 涼子さんへ]

・男女共同参画は平和につながっていることを伝えてくださり、ありがとうございます。
・大学を出て、家庭に入ってしまった多くの女性にとって、大きな励ましになるお話でした。
・女性学は決して遠いものではないことをあらためて感じました。勉強し続けていこうと思います。
・「ご自身が感じた差別」をしっかりと学習し、信じた道を歩んで来られたことに敬服いたしました。

男女共同参画推進せんだいフォーラム 2018
「先達に聞く 2018」

2019 年 3 月発行
公益財団法人せんだい男女共同参画財団

仙台市男女共同参画推進センター
エル・パーク仙台
〒980-8555
仙台市青葉区一番町 4-11-1
141 ビル（仙台三越定禅寺通り館）5・6 階
TEL. 022-268-8300
FAX .022-268-8304